

保健センターから父母の皆様へ

子宮頸がんが予防できるようになりました

子宮頸がんとは

子宮がんには、子宮の入り口近くのできる子宮頸がん、子宮の奥の方に発生する子宮体がんがあります。そのうち、子宮頸がんは20歳代後半から増え始め、30歳代にピークとなる、若い女性に多いがんで、年間約8,000人が発症しています(図1)。戦後の不衛生な時代に非常に多かった子宮頸がんは、徐々に減少してきましたが、近年再び増加傾向が見られ、若年化がどんどん進んでいます(図2)。地方自治体での子宮がん検診の対象者も、20歳以上に引き下げられました。



図1 子宮頸がんの罹患率と死亡率(日本人女性)

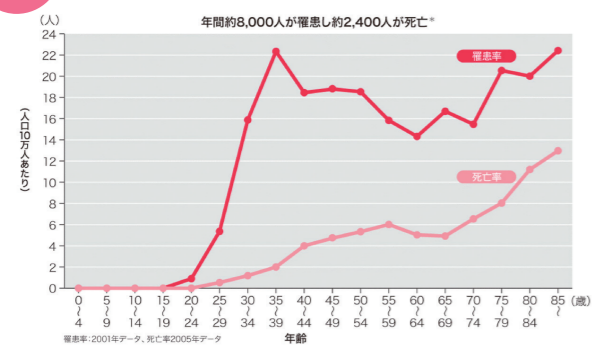
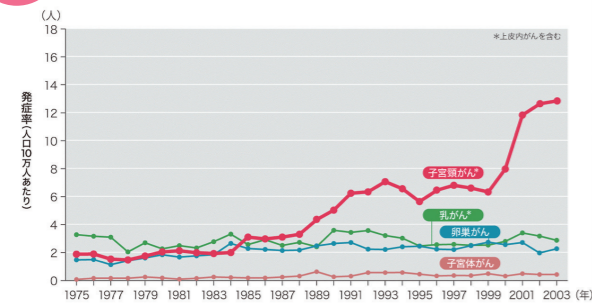


図2 日本における20~29歳の女性10万人当たりの各種がんの発症率推移

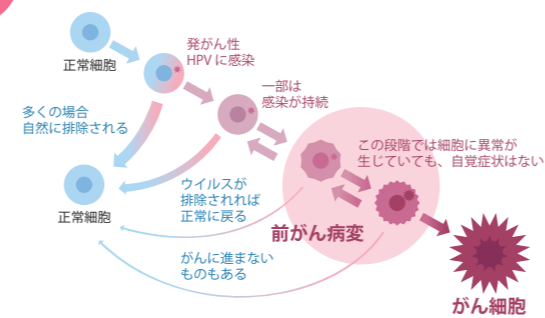


子宮頸がんの原因は

子宮頸がんの原因は、HPV(ヒトパピローマウイルス)というウイルスであることがわかっています。HPVには100種類以上ありますが、そのうち約15種類が子宮頸がんの原因となる発がん性HPVといわれています。

HPVは主に性交渉で感染します。10代女性の2人に1人はHPV陽性であったという調査結果もあり、非常にありふれた感染症です。発がん性HPVに一度感染しても、9割以上の人ではウイルスが自然に排除されますが、約1割の人では感染が持続します。感染が持続している人のうち、さらに一部の人にがんが発生します(図3)。性交渉のある女性の約8割が、生涯のうちにこの発がん性HPVに感染すると言われており、だれもが子宮頸がんになる可能性があるのです。

図3 発がん性HPV感染とがん細胞への変化



子宮頸がんを予防する方法は

子宮頸がんの原因であるHPVに対するワクチンが日本でも接種できるようになりました。発がん性HPVのうち16型と18型の二種類の感染を予防することができます。日本人の子宮頸がんの約60%は16型もしくは18型が原因です。特に若い人ほど16型・18型が原因であることが多いと言われており、12歳女性が全員ワクチンを受ければ、73%の子宮頸がんを予防できると予測されています。

性交渉の経験があるとワクチンの効果はないのでしょうか

発がん性HPVに感染しても90%以上は自然に排除されます。また、HPVに感染しても抗体が作られないため、何度でも同じタイプのHPVに感染する可能性があります。ワクチンを接種して抗体を作るしか、新たな感染を予防する方法はありません。したがって、性交渉の経験がある・なしにかかわらず、ワクチンを受ける意義は大きいと言えます。

子宮頸がんワクチンの方法と費用は

子宮頸がんワクチンは筋肉注射で、3回接種する必要があります。初回、初回から1ヵ月後、初回から6ヵ月後の3回です。3回接種することで十分な効果が得られるので、きちんと最後まで接種してください。費用は3回で5万円程度かかります。公費負担(定期予防接種に組み入れる)が検討されていますが、最も効果が上がる(ほとんどが性交渉経験前)と考えられる11歳から14歳ぐらいが対象となる予定です。残念ながら、大学生は自費で接種するしかなさそうです。

他のワクチンとの違いは

子宮頸がんワクチンは、現在すべて輸入ワクチンです。日本製のワクチンには含まれていないアジュバントという免疫反応を強く起こさせる物質が含まれています。そのため、接種時の痛みや接種後の腫れが通常のワクチンよりも強いことが多く、時に筋肉痛や関節痛、頭痛、発疹などの副反応が出現することもあります。接種後1週間は無理をせず、体調に注意する必要があります。

ワクチンを打てば子宮頸がん検診はいらないのでしょうか

ワクチンを接種しても、子宮頸がん検診は必要です。16型・18型の感染はほぼ100%予防できますが、その他の型が原因で子宮頸がんを発症してしまうことがあります。ま

た、接種前にすでに感染してしまっているHPVを排除したり、発症している子宮頸がんの進行を遅らせたり治したりすることはできません。定期的に検診を受けて早期発見し、がんになる前(前がん状態)に治療することが重要です(図4)。にもかかわらず、日本では子宮頸がん検診の受検率はわずか2割余りにすぎません。欧米諸国に比べると、極めて低いのが現状です(図5)。ワクチン接種と子宮頸がん検診をあわせることで、確実に子宮頸がんから体を守ることができるのです。

図4 子宮頸がん検診による早期発見

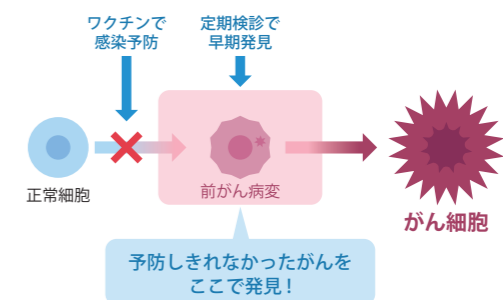
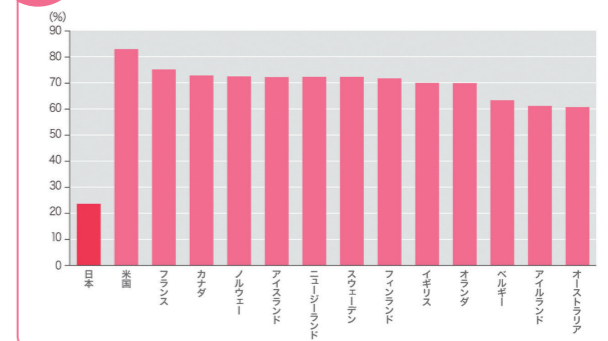


図5 先進国の子宮頸がん検診受診率



子宮頸がんは、ワクチン接種で予防できる唯一のがんです。子宮頸がんを予防するのに、早すぎることはありません。子宮頸がんワクチンの接種と子宮頸がん検診を、是非お嬢様にお勧めください。また、不安や疑問などがあれば、直接お子様に説明いたしますので、保健センターへご相談ください。また、不安や疑問などがあれば、直接お子様に説明いたしますので、保健センターへご相談ください。

詳しくは、下記の保健センターのホームページをご覧ください。

立命館保健センター
<http://www.ritsumeiji.ac.jp/mng/gl/hoken/>
 立命館大学ホームページ → 各センター等 → 保健センター

図の引用元: グラクソ・スミスクライン株式会社